



ふくろう教授の

投資信託説明書 (交付日論見書) かんたんガイド

ポイント1

ファンドの
目的・特色

着目点が見えてくる!

ポイント2

投資
リスク

ポイント4

手続・
手数料等

4つのポイントを
分かりやすく解説!

ポイント3

運用
実績

START

GOAL





案内役の
ふくろう教授

投資信託説明書(交付目論見書)とは、投資信託の購入にあたって投資判断に必要な重要事項を説明した書類です。

しかし、専門用語も多く分かりづらいと感じることもあるかもしれません。

この「かんたんガイド」では、投資信託説明書について押さえておきたい4つのポイントを案内役のふくろう教授が解説します。

4つの チェックポイントを 通過せよ!!



投資信託説明書に書かれているのは、大きく分けてこの4つ。

① ファンドの目的・特色	② 投資リスク	③ 運用実績	④ 手続・手数料等
めざす投資成果は? どんな資産に どのように投資するのか?	基準価額は どのような要因で、 どのくらい変動するのか?	基準価額や分配等の 実績は? 運用資産の状況は?	購入・換金の手続は? どのような 費用がかかるのか?



ファンドの目的・特色

1. ファンドの目的・特色

ファンドの目的

「ニッセイ外国株式インデックスマザーファンド」を通じて、実質的に日本を除く主要先進国の株式に投資することにより、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)の動きに連動する投資成果を目標に運用を行います。

ファンドの特色

■日本を除く主要先進国の株式に投資することによりMSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果をめざします。

●当社独自の計量モデル等を活用し、ポートフォリオを構築します。

●原則として、対円での為替ヘッジ[※]は行いません。

※為替ヘッジとは、為替変動による資産価値の変動を回避する取引のことをいいます。

(基準価額と指数の連動性に関する留意点)

ファンドはMSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)に連動する投資成果をめざしますが、当該指数の構成銘柄すべてを組入れないこと、資金の出入と実際の銘柄等の売買のタイミングのずれ、売買時のコストや運用管理費用(信託報酬)等の費用を負担することなどから基準価額と当該指数との動きが完全に一致しないことがあります。

■購入時および換金時の手数料は無料です。

●購入時の購入手数料および換金時の換金手数料、信託財産留保額はありません。

・保有期間中に運用管理費用(信託報酬)等をファンドからご負担いただけます。

●MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)について

同指数は、MSCI Inc.が公表している指数であり、日本を除く主要先進国の株式により構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

なお、「円換算ベース」とは同指数をもとに、委託会社が独自に円換算したものです。

ファンドの目的

ファンドがめざす投資成果が簡潔に記載されています。

どのような資産に投資するのか、値上がり益による「成長」をめざすのか、配当・利子収入等の「安定した収益」の獲得を重視するのかなど、ご自身のニーズに合っているかご確認ください。

ファンドの特色

ファンドの目的を達成するための具体的な運用方法や、ファンドの仕組み、主な投資制限、収益分配方針などが記載されています。商品性をしっかり理解しましょう。



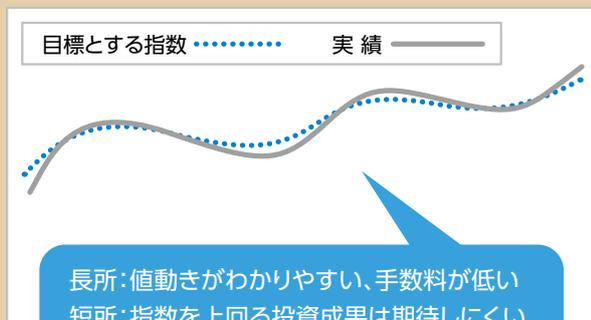
運用方法をチェックする!

インデックス運用とアクティブ運用はどちらがいいの?

それぞれに長所・短所があるので、どちらがいいかは一概には言えません!

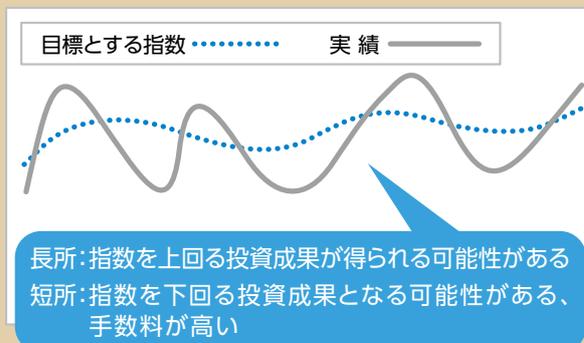
【インデックス運用】

日経平均株価など各種指数に連動した投資成果をめざす運用



【アクティブ運用】

各種指数を上回る投資成果をめざす運用



ワンポイント
アドバイス

自分の投資目的にあった投資対象や運用方法を選ぶことが大切なんです!



次は投資リスク!
ポイント2



投資リスク

2. 投資リスク

基準価額の変動要因

- ファンド(マザーファンドを含みます)は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。また、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)の動きに連動することを目標に運用しますので、MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)の動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分に認識ください。

●主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化(倒産に至る場合も含む)等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予測される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

*基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

投資信託に共通する基本的なリスク

ファンドは値動きのある株式や債券等に投資するため、基準価額は変動します。預貯金とは異なり、投資元本を割り込む可能性があることをご認識ください。

基準価額の主な変動要因

ファンドごとに基準価額の変動要因は異なります。どのようなリスクがあるのかを確認しましょう。

基準価額の主な変動要因:

株式投資リスク、債券投資リスク、不動産投資信託(リート)投資リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、流動性リスク など



値動きの大きさをチェックする!

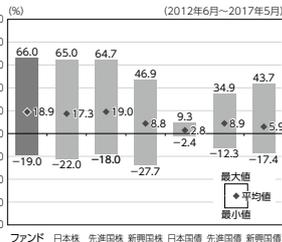
2. 投資リスク

(参考情報) 投資リスクに関する参考情報として、ファンドのリスクの定量的な把握・比較を目的に下記のグラフを作成しています。

①ファンドの年間騰落率および税引前分配金再投資基準価額の推移



②ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



基準価額の値動きの大きさは?

(参考情報)で変動幅を確認しましょう。

左のグラフは、過去のファンドの実績です。年間騰落率と、分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額の推移を確認することができます。右のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスの年間騰落率の最大値・最小値・平均値を示しています。棒グラフの高低差が値動きの大きさを示しており、債券より株式の方が値動きは大きい傾向にあります。



ワンポイントアドバイス

ファンドごとに基準価額の変動要因と値動きの大きさは異なります。ファンドのリスクを十分に理解したうえで、上手くいかなかった場合でも損失を受け入れることのできる範囲で投資しましょう。



運用実績

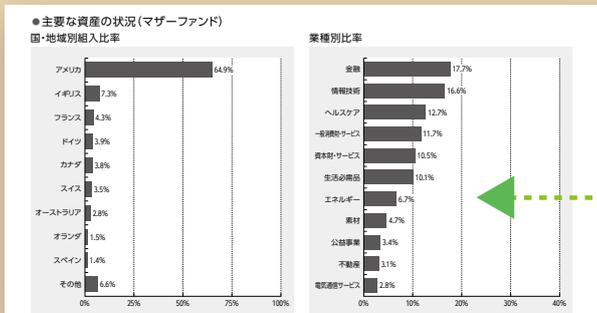


基準価額・純資産の推移

基準価額は「投資信託の時価」、純資産総額は「投資信託の規模」を表します。基準価額の値動きや、純資産総額の増減などを確認しましょう。

分配の推移

今までのように分配を出してきたのか直近の動向を確認できます。ただし、分配金額は基準価額の水準や市況動向等により変動しますので留意しましょう。



主要な資産の状況

ファンドがどのような資産を保有しているのかを記載しています。

※直近の運用実績については、マンスリーレポートを確認しましょう。



分配金を理解する!

ファンドで分配金が支払われるイメージ



「分配金が多いファンド = 良いファンド?」

必ずしもそうとは言えません!

分配金は、ファンドの信託財産(ファンドが保有している資産)から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。受け取った分配金と基準価額の変動を合わせたトータルリターン*で見ることがポイントです。

※トータルリターン=(現在の基準価額-購入時の基準価額)

+受け取った分配金

ワンポイント
アドバイス

運用実績をチェックするときは、分配金だけに注目することがないように注意しましょう!



次は手續・手数料等!
ポイント4



手続・手数料等

お申込みメモ

購入から換金までの手続について記載しています。
決算日や信託期間なども確認しましょう。

ファンドの費用

主な費用を確認しましょう。

4.手続・手数料等													
お申込みメモ													
購入時	購入単位 販売会社が定める単位とします。												
購入時	購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 ●収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日の基準価額とします。												
購入時	購入代金 販売会社が定める日までに、販売会社にお支払いください。												
換金時	換金単位 販売会社が定める単位とします。												
4.手続・手数料等													
ファンドの費用・税金													
●ファンドの費用													
投資者が直接的に負担する費用													
購入時	購入時手数料 ありません。												
換金時	換金時手数料 ありません。												
換金時	信託財産留保額 ありません。												
投資者が信託財産で間接的に負担する費用													
毎日	運用管理費用(信託報酬) ファンドの純資産総額に年率0.20412%(税込0.189%)以内の率(以下「信託報酬率」といいます)をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。 なお、2017年11月21日現在の信託報酬率は年率0.20412%(税込0.189%)であり、その配分は次の通りとします。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>年率</th> <th>役務の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>0.089%</td> <td>ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の信託業務</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>0.080%</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の処理</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>0.020%</td> <td>ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の処理</td> </tr> </tbody> </table>	支払先	年率	役務の内容	委託会社	0.089%	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の信託業務	販売会社	0.080%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の処理	受託会社	0.020%	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の処理
支払先	年率	役務の内容											
委託会社	0.089%	ファンドの運用、法定書類等の作成、基準価額の算出等の信託業務											
販売会社	0.080%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の処理											
受託会社	0.020%	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の処理											
毎日	監査費用 ファンドの純資産総額に年率0.0108%(税込0.01%)をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。												
随時	その他の費用・手数料 購入有価証券の売買委託手数料、信託事務の経費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に利率・上限額等を記載することはできません。												

購入

購入時手数料:

購入時に販売会社に対して支払う費用です。
購入時手数料がないファンドもあります。

運用管理費用(信託報酬):

ファンドの保有期間中に、投資者が信託財産(ファンドが保有している資産)で間接的に負担する費用です。

信託財産留保額:

通常、換金時に負担する費用です。換金代金から差し引かれ、信託財産(ファンドが保有している資産)に留保されます。信託財産留保額がないファンドもあります。

換金



賢く運用するために知っておこう

購入時の手数料はどこも同じ?

販売会社によって異なります。

同じファンドでも販売会社によって購入時手数料が異なる場合があります。また、販売会社によっては購入金額が大きいほど、手数料率が割安となる場合もあります。

ワンポイントアドバイス

手数料も
ファンド選びの
重要なポイントの
1つですね!

コスト

長期投資で影響の大きい手数料は?

運用管理費用(信託報酬)に注目!

運用管理費用(信託報酬)はファンドの保有期間中継続的にかかるため、長期間保有する場合は特に大切なチェック項目です。

一般的に、積極的な運用で高いリターンをめざすアクティブファンドは運用管理費用が高く、指数に連動した運用成果をめざすインデックスファンドでは低い傾向があります。

ゴールの前に最終確認

ポイント1



どんな資産に
どのように
投資するのか?

ファンドの投資対象や運用方法をしっかり理解し、ご自身の目的に合っているかを確認しましょう。

ポイント2



ファンドのリスクを
理解できたか?

どのようなリスクがあるのか、基準価額の値動きの大きさがどの程度なのかを確認しましょう。

ポイント3



過去の
運用実績は?

基準価額や分配金の実績、運用状況等について、具体的なデータで確認しておきましょう。

ポイント4



どんな手続で、
どのような手数料が
かかるのか?

購入から換金までの手続や手数料等について、確認しましょう。

GOAL!

オールクリア!!

4つのポイントを
しっかりチェックした
上で、ご自身のニーズ
に合ったファンドを
選びましょう!



■ 投資信託のリスク

- 投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産の場合には為替変動リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- **投資信託は、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなりますので、リスクを十分にご認識ください。**
- 基準価額の変動要因は個別の商品毎に異なります。ご購入に際しては、投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

■ 投資信託の費用

<購入時に投資者が直接的に負担する費用>

- 購入時手数料

<換金時に投資者が直接的に負担する費用>

- 信託財産留保額
- 換金手数料

<保有期間中に投資者が信託財産で間接的に負担する費用>

- 運用管理費用(信託報酬)
- 監査費用
- その他の費用・手数料(組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用、借入金の利息等)

※ 当該費用とその合計額、上限額および計算方法は個別の商品毎に異なりますので、当資料では記載しておりません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ ご留意いただきたい事項

- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果(損益)はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- 当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。投資信託のご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等(目論見書補完書面を含む)の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は保険契約や金融機関の預金ではなく、保険契約者保護機構、預金保険の対象とはなりません。証券会社以外の金融機関で購入された投資信託は、投資者保護基金の支払対象にはなりません。
- 当資料のいかなる内容も将来の市況動向等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料は、金融商品取引法に基づく開示資料ではなく、投資勧誘を目的とするものではありません。また、個別のファンドを推奨するものではありません。